

活動名	能登の被災者支援を兼ねた災害学習研究「能登半島地震を学ぼう！」
-----	---------------------------------

貢献・連携類型	5. 学生の社会貢献活動への参加奨励
---------	--------------------

報告者	応用情報工学科	学科	職位	准教授	氏名	五味 悠一郎
-----	---------	----	----	-----	----	--------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

令和6年能登半島地震直後の1月に、災害研究の社会実装として二次避難マッチングや、約260名が利用された定時運行バスの支援をさせていただいたご縁で、一般社団法人能登乃國百年之計から現地訪問のお誘いがあり、羽田空港と能登空港を結ぶ定期便が再開したばかりの4月27日から5月2日の間、学生を引率して石川県珠洲市へ行き、住民の方々との交流やお手伝い、テントの設営や撤収、焚き木を使った調理、キャンプ場や海岸の清掃、被災地の視察などに取り組みました（桜門春秋No. 149）。

この取り組みは、日本大学災害研究ソサイエティ (NUDS) を通して学内の災害関連研究者に周知したところ、理工学部と理工学研究科から学生合計9名の参加がありました。被災者や参加した学生の反響が良かったことから、同様の取り組みを応用情報工学科主催で令和6年の夏休みに企画し、フライヤーやWebサイトおよび申込フォーム等を準備してNUDS経由で周知したところ、危機管理学部の学生合計7名から参加申込があり、8月6日から9日まで実施しました。

【日本大学関連企画 | 能登ステイ】  
<https://notostay.com/nu/>

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

本活動は、学生にとって実践的な学びとなっただけでなく、被災者との関係も生まれ、学生の研究や継続支援にも繋がったようです。危機管理学部の学生団体Sakuraが令和7年度に学内イベントを主催する予定で、その企画の支援にもなったようです。

被災地では学生のお手伝いに対するニーズが多数あることもわかりましたので、石川県のサテライトキャンパス構想や石川県と日本大学の包括連携協定を背景として、学部もしくは大学主催の企画への展開を検討しています。

能登の復興に目処がつく（支援がなくても日常生活や経済活動が持続可能な状態になる）までは、学生が活躍できる場を広げつつ、令和7年度以降も様々な方策で支援を継続します。

対象・相手先	石川県
--------	-----

協定書・依頼の有無（具体的に記入）  
 一般社団法人能登乃國百年之計からの依頼

実施日時	令和6年4月～8月
------	-----------

場所	石川県
----	-----



本学からの参加者

引率教員：応用情報工学科 五味悠一郎  
 参加学生：建築学科3名、応用情報工学科4名、建築学専攻2名、危機管理学部7名

